

事務事業評価表

平成13年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(750)8030
担当部課名	生涯学習部	博物館	課	学芸班
事務事業名	施設維持補修費		事業コード	15110

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	9
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	年度

2 実施根拠及び関連法令等

博物館法、相模原市立博物館条例、同施行規則

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
博物館設備の維持補修に係る経費。補修には突発的で予期しない故障等の補修と、日常点検の中で、故障はしていないものの器材の劣化や摩耗が認められ部分修繕を行う必要があるため、計画的に年次を定めて実施する補修とがある。		市民	
		対象数	613000人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
プラネタリウム機器補修481 施設設備機器補修 4,513		ない	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名なし	
		計画年次 年度～ 年度	
		プラネタリウム機器の機器更新、施設設備機器の更新及び補修については主要事業計画のそれぞれプラネタリウム保全事業、博物館設備機器保全事業の名目で、年次計画を立てて計上している。	

4 評価指標

指標名	施設維持補修精査率		
指標式	$200 - (\text{プラネタリウム機器以外の施設維持補修費の実績} / 0.8 \times \text{主要事業計画調査作成時の事業費}) \times 100$		
指標設定の意図	計画的に補修する項目については業者提出の参考見積もりを精査し仕様検討を行い、経費削減を図る。調査作成時の80%の経費削減を目標とする。		

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標		110	a	100	100	
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	4,941	9,394	4,994	5,000	6,300
	人員・時間数	1,0人/年・人	1,0人/年・人	1,0人/年・人	1,0人/年・人	1,0人/年・人
	人件費	8,420	8,420	8,420	8,420	8,420
	その他経費					
	合計	13,361	17,814	13,414	13,420	14,720
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 124.6%
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	

$\frac{a}{b} \times 100 = \frac{124.6}{100.0} \times 100 = 124.6\%$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
---	----------------------------	----------------------------

理由: 評価指標の計算には、突発的な機器故障や不具合の補修経費を除いている。したがって、プラネタリウム機器補修費は突発的な機器故障のみに対処しているため評価指標に入っていない。平成11年度は施設本体の維持補修に係る主要事業計画への計上はしていない。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 A ▼	A : 適応している	理由: 来館者へのサービス低下を招かないためにも良好な施設維持が必要となる。設備機器は経年とともに摩耗、劣化を起こすと不具合が生ずることになるので、日常の保守点検を怠らないようにしている。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 A ▼	A : 妥当である	理由: 不具合を出さないためにも、無理な負担をかけず機器の寿命を延ばすための把握に努め、さらに無駄に光熱水を消費しないようにしている。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由: 補修は民間の業者が行うことになっており、検討の余地はないといえる。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 A ▼	A : 満足できる	理由: 突発的な故障や小規模の補修には速やかに対応するようにしており、故障の際にはその代用品を用意したり、補修時期も休館日や閉館後を当てるようにして来館者に不快な感じを持たせないようにしている。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由: 博物館が市民の学習の場としていつでも利用しやすい状態に保つことをねらいとするこの事業は、生涯学習の推進という上位の施策とは合致し、これを実現する上で不可欠、かつ有効であるといえる。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明: 経年とともに摩耗、劣化を起こす設備機器に対して速やかに、しかも最小の経費で不具合に対応する必要がある。
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明: 機器の性能を熟知し、補修の仕様を的確に判断する。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明 日常の稼働状況を把握しておくことが大事となる。その上で、補修項目を精査し実施することになる。当面は現状の方針で継続したい。	
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--